

# 「ふるさとでの学びを生かし、新しい時代を築く心豊かな子どもの育成」 － 発表力を高める指導の工夫 －

## 秩父市立大滝小学校

### 1 主題設定の理由

本校の児童は明るく素直で学年間の枠を越えて仲がよい。しかし、幼い時から少人数の限られた人間関係の中で育ってきているために、自分の考えを単語だけで伝えようとしたり、教師への依存度が高かったりする傾向がある。互いに切磋琢磨して、考えを深めようとするのが苦手である。

来年度は統合が控えており、新しい環境でスムーズに学校生活をスタートさせるには大勢の人の前で堂々と話のできる児童を育てていく必要がある。

そこで、自分の考えを相手にわかりやすく伝えることのできる「発表力を高める指導」を研究主題として設定した。

### 2 仮説

発表の場や機会を工夫し、関わり合い、伝え合う活動を充実させていけば、発表力のある児童が育つであろう。

### 3 めざす児童像

「発表力のある児童」とは

自分の考えを わかりやすく 伝えること	→ 「課題を明確にとらえた内容」を → 「理由を明らかにして」 → 「相手を納得できるように」 → 「大きな声で 堂々と」 → 「相手を意識して」
---------------------------	---



### 4 検証のための手立て

#### ①国語科の授業研究

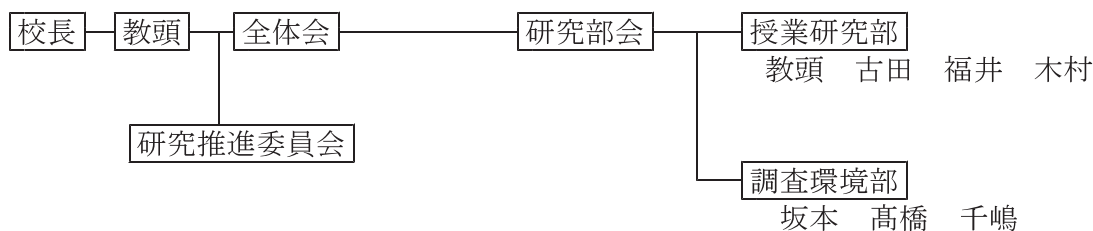
- 発表の場の工夫（学習形態・学習活動の工夫）
- 指導事項（基礎基本）の定着・・・話す・聞く領域
- 評価の工夫（自己評価・相互評価）

#### ②日常における発表活動の工夫・充実

- 集会・行事
- 挨拶
- 詩の暗唱
- 朝の会・帰りの会のスピーチ
- 読書指導



### 5 研究組織



## 6 成果と課題

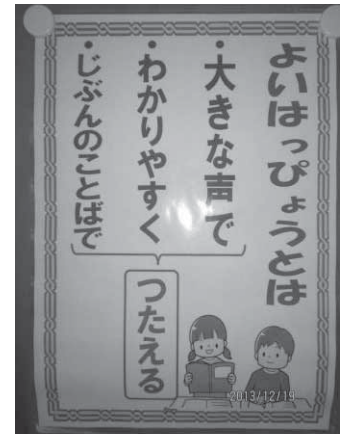
### (1) 国語科の授業研究

#### 成果

- 発表までの段階的指導を計画的に実施することにより、児童の発表意欲が高まった。
- 「話し方カード」や「聞き方カード」を準備し、「話す・聞く」領域の指導を着実に積み重ねることで、児童が自信を持って発表できるようになった。
- 評価を工夫し、友達の記事の良いところを見つけさせることで、児童が学び合い、学んだことを自分の発表に生かそうとする姿が見られた。
- めあてを意識させて発表することにより、発表力の向上を図ることができた。
- 学習形態を工夫し、発表の相手を変えたり場の設定を工夫したりすることで、発表者が聞き手を意識した発表ができるようになった。
- 児童のアンケート結果から児童の考える「よい発表」のイメージを基に、本校の考えるよい発表について児童にわかりやすい言葉で各教室に掲示することにより、発表への関心が高まった。

#### 課題

- 語彙力や表現力がともなわず、的確に表現することや自分の言葉で表現することが十分ではない児童への指導の工夫が必要である。
- 自分の考えを発表することはできるが、少人数のためか、よりわかりやすく伝えようという意識は薄い。さらに様々な工夫をし、発表の質の向上を高めたい。



### (2) 日常の発表活動の工夫・充実

#### 成果

- 各種集会や行事等で意図的に発表の機会を設定したことで、児童が発表の場に慣れ、落ち着いた態度で臨むことができるようになった。また、発表を通して表現することの喜びや達成感を味わうことができ、自信をつけた。
- 大滝小挨拶のポイントを標語で掲示することで大きな声で元気よく挨拶ができるようになった。
- 詩の暗誦を続けることにより、言葉のリズムを楽しみながら多くの優れた作品にふれることができた。
- 読書月間に6年生児童が全校児童への紙芝居を実施した。6年生児童にとって発表の良い機会となり、全校で本への関心を深めることができた。
- 読書指導として、ファミリー読書に取り組み、家庭での意識を高めることができた。

#### 課題

- 全校集会での発表等から、下級生が上級生の良い点を学ぶことができたが、形式にはまった発表が多くなる傾向がみられる。自分の言葉で表現できるように指導していきたい。
- 発表態度はよく身に付いてきているが、指名されるのを待って発表しようとする傾向も見られる。より主体的な発表ができるよう今後も継続的な指導が必要である。



(担当 教諭 木村悦子)

# 学力向上と豊かな心の育成

## — 言語活動の充実をとおして —

秩父市立荒川東小学校

### 1 はじめに

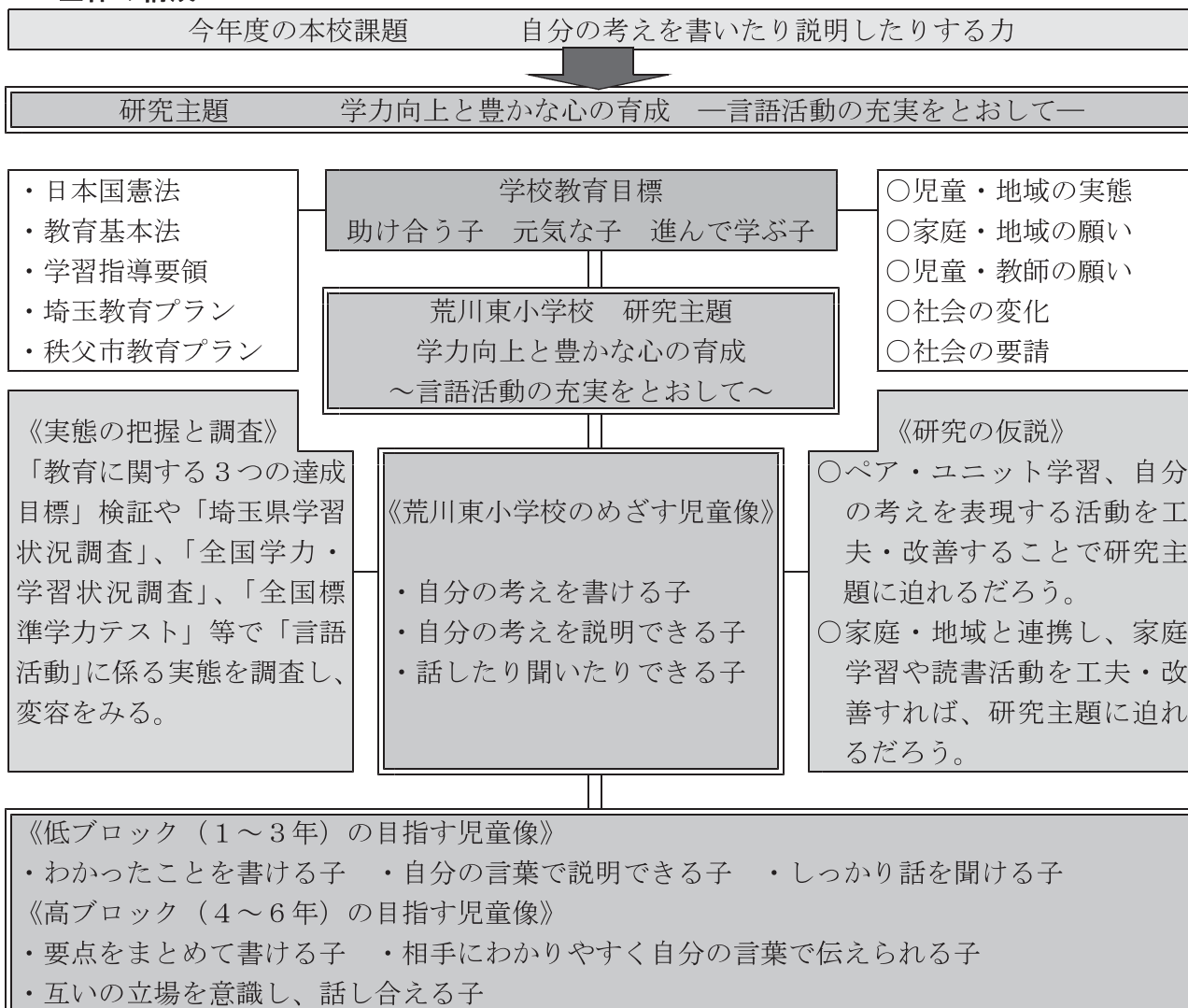
小・中9年間を見通し、地域全体の教育力向上が求められている。荒川地区では小・中3校で合同研修や連絡会を密に行い、各校の実態把握、校内研修の成果と課題等を共通理解している。そして、よりよい教育実践を目指し、「学力の向上と豊かな心の育成」を小・中連携の大きな柱として、言語活動の充実を図りながら課題解決に向けて取り組んでいる。

### 2 研究の概要

#### (1) 主題の設定の理由

県学習状況調査や全国学力・学習状況調査等から本校の児童は、自分の考えを書いたり、説明したりする力に課題が見られる。また、後半の問題に無回答が多く見られることから、読み取りや自分の考えの表現などに時間をかけすぎてしまう傾向がある。そこで、荒川3校の「学力向上と豊かな心の育成」を主題とし、本校では言語活動をより一層充実させながら主題に迫ることにした。教科等の指導において、小集団の学習活動を効果的に取り入れたり、話し合いを十分にしていくことで学力を高めたり、豊かな心の育成が図られたりできるだろうと考えた。

### 3 全体の構成



## 4 具体的な取組

### (1) 教科等でのペア・ユニット学習の効果的な取組

#### ア 道徳における小集団の活動

授業の中で効果的な小集団（ペア・ユニット）学習によって考えを深めたり、全体の前での発表したりするなど、学習展開の工夫をした。自分の考えを記録し、伝え合い、発表していく言語活動の充実により、学力向上と豊かな心の育成を図った。



#### イ 学級活動による話し合い

計画的に話し合いの機会を設け、自分の考えを他者に伝えるとともに、他者の考えを認めていくことで、言語活動の充実を図りながら豊かな心を育むことができた。



#### ウ ライフスキル教育

全教職員がライフスキル教育を理解するため、荒川3校合同研修会でライフスキル教育の模擬授業を受けたり、校内研修でライフスキルの授業構想を学んだりした。今年から、本校では、高学年でライフスキル教育を実施した。

### (2) 研修会のあり方の工夫

#### ア ワークショップ型での研修

#### イ ベテラン教員に学ぶ会

教員歴30年以上のベテラン教員が、教員歴10年未満の若手教員に指導法などを教える研修会を10回実施した。



### (3) 板書の工夫

意見や考えを整理し、授業の流れが視覚でわかるような工夫をする。

### (4) 家庭学習・読書活動定着に向けた工夫

#### ア 家庭学習カードの活用

#### イ 「家庭学習のススメ」による啓発

#### ウ 学習努力の見える化計画

#### エ 秩父市立図書館『朝読セット』の活用

#### オ 各学年の年間読書目標の設定

#### カ 図書カードの工夫・改善と環境整備

#### キ 学校応援団や図書委員会による読み聞かせ



### (5) 表現活動の取組

#### ア 荒川東小俳句大会

#### イ 荒川東小名文暗唱

#### ウ 集会活動の工夫



### (6) 接続期プログラムの活用

幼保小の連携を深め、発表や会話の機会を多く試みた。

## 5 おわりに（成果と課題）

教科等で小集団の学習活動を意識したり、話し合い活動が少しずつ活発になってきたりして、言語活動の充実を1つの手段として学力向上に努めることができた。しかしながら、全国学力・学習状況調査で上位の県の取組に比べると、学習規律のさらなる徹底や授業展開のさらなる工夫・改善など、校内研修をさらに充実していく必要がある。全職員の英知を結集して、実践につながるよりよい研修を推進し、自分の考えを伝えることができる児童の育成を目指したい。

（担当 教諭 浅見和良）

# 『学力向上と豊かな心の育成』

## — 言語活動の充実をめざして —

秩父市立荒川西小学校

### 1 校内研修実施内容

本校では本年度の研究主題を『学力向上と豊かな心の育成』とし、副題を「言語活動の充実をめざして」として、研究を進めている。

言語活動の充実については、詩の掲示、音読の充実、学年による群読発表、ボランティアによる本の読み聞かせを継続・充実させている。また、授業においては、少人数を生かし、話し合い活動や個人の発表活動を充実させる工夫をするなど、よりよい言語環境が整っていると感じる。

研究主題
学力向上と豊かな心の育成 —言語活動の充実をめざして—

めざす児童像	
低 学 年	高 学 年
話す…相手にわかりやすく話せる子 聞く…大事なことを落とさないように聞ける子 書く…相手にわかるように、順序よく書ける子 読む…場面の様子を考えながら読める子	話す…筋道を立てて話せる子 聞く…話の中心をつかみながら聞ける子 書く…考えたことの筋道を立てて書ける子 読む…内容や要旨をつかみながら読める子

授 業 と 関 連 し た 実 践
①読み・書きなどの基礎的、基本的な内容をくり返し学習することで基礎学力が定着するであろう。 ②各教科領域を通して「読む力と書く力の育成」に努めれば、文章を理解し読み書きができ、自分の考えを表現できる児童が育つであろう。 ③「学習の約束」「発表の仕方」「声のものさし」などの学習規律を確立することにより、落ち着いて学習に取り組むことができるであろう。 ④「音読カード」「群読発表」「一斉漢字テスト」「ミニ作文」「読書記録カード」「おはなしくれよん読み聞かせ」などの全校的活動に努めれば、読み書きや発表の技能を高め、基礎・基本を確実に定着させ、読解力向上につながる基盤をつくることができるであろう。 ⑤多くの本とふれ合えるように、図書館司書補助員の活用も含め、読書活動の充実に努めれば読書する習慣が身に付き、読解力を深く支える基礎的な力が育まれるであろう。 ⑥言葉に対する興味をもたせ、それを調べる環境を整えれば、言葉に対する理解が深まるであろう。 ⑦自分の思いや考えを書いてまとめる場を確保すれば、考えをじっくりとまとめることができるであろう。 ⑧伝えたい相手や場の設定を工夫すれば、相手意識をもち、自分の考えを発表しやすくなるであろう。

## 言語活動の実践

- (ア) 場面の様子がよくわかるように読みを深めさせる手立て
- 読めない漢字がないように音読を徹底させる。
  - 段落読み、役割読み、動作化等の形態を工夫し、内容のまとまりがわかるように読ませる。
- (イ) 順序よく自分の考えをまとめる手立て
- キーワードになる言葉に線を引かせ、考えをはっきりさせる。
  - ワークシートに自分の考えを書かせて、考えをまとめさせる。
- (ウ) 相手を意識し表現させるための手立て
- 相手にわかるように発表前に自分の考えをまとめ、自信をもって発表できるようにさせる。
  - 相手を決めて、小グループで全体の場等の発表の場を工夫し、発表しやすい環境を作っていく。
- (エ) 全体を通しての手立て
- 音読カードを活用して、毎日取り組めるようにする。(家庭の協力)
  - 他教科においても音読をする場面を設ける。
  - 読書を奨励する。(年間目標冊数の設定、読書月間、家族読書の日)
  - 詩などの群読を通して、言葉のリズム感を楽しませる。

### 2 全職員の公開授業による授業研究



小グループやワークシートを使って発表しやすくする活動



グループ内での話し合いを通じて作戦を立てる活動



助言を分かりやすくして、児童の考えを引き出す活動



児童の回答について、理由も述べさせる活動



自分の言葉で発表できるようにする活動



発表する時の言葉を大切に活動

### 3 成果と課題

- 教師は正しい言葉で話し、黒板などに正確で丁寧な文字を書くことに留意する。また、児童が集団の中で安心して話ができるような教師と児童、児童相互の好ましい人間関係を築くことで児童が意欲的に授業に向かっている。
- 自力解決・話し合い活動・発表の場の確保・授業規律を重点的に指導している。
- 児童数が49名と少ないので、意見や柔軟な発想にやや欠ける面がある。引き続き言語活動を重視し表現力を高めて行くことが必要である。

(担当 教諭 萩原克憲)



### Ⅲ 中学校における校内研修の取組

「やってみせ、言って聞かせて、させて  
みて、褒めてやらねば、人は動かじ。  
話し合い、耳を傾け、承認し、任せて  
やらねば、人は育たず。  
やっている、姿を感謝で見守って、  
信頼せねば、人は実らず。」

山本 五十六



思考力・表現力を身につけ、学習に意欲的に取り組む生徒の育成  
— 言語活動の向上を目指した学習指導を基盤として —  
秩父市立秩父第一中学校

1 本校生徒の課題（学習面）

- ・家庭学習の時間が少ない
- ・発表力が身につけていない
- ・創意工夫がない
- ・コミュニケーション能力が不足している
- ・継続性にかける
- ・受動的でやらされている学習
- ・繰り返し（反復）が少ない



求められるもの  
意欲  
思考・判断・表現

2 実践（各教科での取組）

(1) 国語部会

① 取り組み

- ・ 授業において身につけさせた力（技能）を次の授業以降で計画的・意図的に繰り返し取り入れ、自信をつけさせ、意欲を高めるよう努める。（国語への関心・意欲・態度）
- ・ 作文指導の時間以外の様々な指導の中で、短作文等を書かせる時間を設け、作文を書くことへの抵抗の軽減を図る。
- ・ 音読において、すらすら読めるように、音読発表の時間を多く取り入れるよう努め、漢字の読み書き指導にも力を入れる。
- ・ 家庭学習ノートの提出を奨励し、提出者への指導、助言、励まし等を行う。

② 成果と課題

< 成果 >

- ・ 自らの能力の向上を自覚し、意欲的に取り組む生徒が増えた。
- ・ 一人一人が授業においてすべきことを自覚し、積極的に取り組む生徒が増えた。

< 課題 >

- ・ 授業において、指導内容を生徒に身につけさせるための指導内容の精選並びに授業形態等の工夫・改善が必要。
- ・ 作文嫌い（考えること嫌い）をなくすための指導の工夫・改善。
- ・ 音読の指導の充実。
- ・ 国語科における授業研究の充実。
- ・ 各活動における「集中力」の継続策の検討。
- ・ 積極的に発表する力（聞く・話す能力）の育成に向けての指導の工夫・改善。

(2) 数学部会

① 取り組み

- ・ 発問に対して自由な発言を求める時間を設定する
- ・ 計算練習プリント（宿題）の出題と工夫
- ・ 自己評価カードの活用

② 成果と課題

< 成果 >

- ・ 発問に対して自由な発言を求めたので、発言しやすい雰囲気をつくることができた。上手く表現できない生徒には、問答法（聞き返し）を利用し、自分なりの言葉にまとめて発言させるできた。
- ・ 小単元ごとに計算プリントを作成し、主に復習用の宿題とした。解答には解説も加え、答え合わせのときの確認がしやすいよう留意した。進んで提出する生徒が増え、答え合わせの際の”間違い直し”にも自分なりの言葉やチェックマークを加えるなど工夫が見られるようになった。
- ・ 自己評価カードを授業の最後に記入させることによって、本時の授業を振り返り、授業内容の確認をすることができた。また、前時の授業内容など既習内容を振り返りことに役立っている。

#### <課題>

- ・ 挙手→指名→発表という場面では挙手が少ない。また、発表者が偏ってしまった。自由な発表の場面では、オープンな質問とクローズな質問を適切に使い分けなければいけない。
- ・ 全員提出という制限を設けていないため、提出者に偏りがあった。提出することだけを目的とした生徒もいて、答えを丸写しで提出してくることもあった。
- ・ 自己評価カードの記入時間を適切に確保できないことが多かった。そのために、多くの生徒が詳細に記入することができていない。1人1人に返信をすればさらに効果が期待できるのだが、その時間が無かった。

### (3)理科部会

#### ①取組

- ・ 毎時間、自己評価カードを記入させ、その日の学習内容を確認させる。
- ・ 授業のはじめに、生徒一人一人に前時の質問をして復習を行う。
- ・ 観察・実験を行う前に、生徒一人一人に予想を立てさせ、目的意識を持って取り組ませる。
- ・ 生徒一人一人に観察・実験を行わせるように道具や器具を工夫する。
- ・ 観察・実験終了後、班での話し合い活動を行い、観察や実験の結果をまとめたり、結果からわかったことなどを話し合ったりの活動を充実させる。

#### ②成果と課題

##### <成果>

- ・ 本時の学習内容を確認することができ、意欲的に取り組む生徒が増えた。
- ・ 授業前の質問をすることで、知識の確認ができ、基礎基本の定着ができた。
- ・ 予想を立てさせてから、観察・実験を行い目的意識をもって取り組めた。
- ・ 一人一人が観察・実験を行えると、とても意欲的に取り組んでいた。
- ・ 理科を苦手な生徒も、話し合い活動を行うことで、わからないことも知ることができた。

##### <課題>

- ・ 観察・実験準備に時間がかかってしまう。
- ・ 実験器具が不足して、なかなか一人一人に実験することができない。
- ・ 今後は、話し合い活動のルールを決めないと、話し合いがスムーズに行えないグループがある。
- ・ 授業計画をしっかりとっておかないと、授業時間が足りなくなってしまう。

(担当 主幹教諭 黒沢明夫)

# 確かな学力と豊かな心の育成を目指した指導の工夫

## 秩父市立秩父第二中学校

### 1 はじめに

本校は、自然豊かな環境のもと「心豊かで自立して生きる生徒」を学校教育目標とし、「さわやかなあいさつ、一人一人を大切に絆を深め、誰もが安心して学べる学校」を目指す学校像として掲げ、教職員一丸となって、学校教育目標の具現化に向けた教育活動を展開している。

### 2 主題設定の理由

#### (1) 子どもたちを取り巻く今日的な環境から

現在、子どもたちを取り巻く環境は、変化の激しいグローバルな社会となり、身に付けた知識や技能を積極的に活用し、斬新なアイデアを自らの頭で生み出し、最良の問題解決策を導き出すことが必要な知識基盤社会である。変化の激しい社会を生き抜いていける強い自分自身をつくることが求められている。

また、今日の我が国における科学技術の進歩や経済発展は情報化、国際化、高齢化等を加速し、国民の間に核家族化、少子化、自然環境への関心の高まり等多様な価値観をもたらしている。さらに、子どもたちの生活において、地域社会との結びつきが弱まるなど、子どもたちをめぐる生活環境も大きく様変わりした。

世の中は、変化している。学歴だけでなく過去の経験を生かしながら、変化に対応できる「生きる力」を社会は求めている。

#### (2) 生徒の実態から

教育に関する3つの達成目標の検証、埼玉県学習状況調査、全国学力・学習状況調査等の結果を見ると、おおむね「基礎・基本」は、身に付けている。しかし、ものの考え方や自分の考えをうまく相手にわかるように伝え表現する力、学んだ知識等を活用し、課題を解決していく力には課題が残っている。また、勉強をしようとする学習への意欲も向上しつつあるが、さらに落ち着いて授業に臨み、目的意識を高揚させながら意欲向上につなげたいと考える。



<アルミ缶回収>

生徒の生活アンケートをみると、行事等に積極的に取り組み、達成感、成就感を味わっているものの、目標のある意欲的な取組や自他を大切にす思いやり等に課題がある。

以上のような理由から、本研究主題を設定し、学校教育目標の具現化に迫った。

### 3 研究仮説

「基礎・基本」を確実に定着させ、自分の考えを相手にうまく伝えるための「表現力」を身に付け、自らの意欲を高め、自他ともにそのよさを認め合い、変化の激しいグローバル社会を子どもたちが主体的・創造的に生き抜ける指導の実践を行うため、以下のような仮説を立てた。

個に応じたきめ細かな指導や思考・発表する場面を大切に授業の創造、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を実践していくことで「確かな学力」「豊かな心」を身に付けた生徒が育つであろう。



＜いじめ防止教室＞

ここで、「確かな学力」とは、①揺るぎない基礎・基本、②思考力・判断力・表現力・問題解決能力、③学び続ける意欲そして、「豊かな心」とは、①他人への思いやりと寛容の心、②生命を大切に人権を尊重する心、③美しいものや自然に感動する心④集団や社会へ貢献しようとする心とそれぞれ捉え、研究を推進した。

#### 4 研究の実際

##### (1) 表現力に視点を置いた授業の展開（国語科の例）

- ア 題材 俳句 「情景を思いと言葉で切り取ろう」
- イ 授業について

俳句は、17音という短い言葉で表現する、技法であることを活用して、自分が感じた風景を言葉で表現させたいと考えた。

それぞれの思いがそこには詰まっている、俳句をつくる活動をとおして、普段は見過ごしていた美しい風景や、心の奥にある自分の思いに気づききっかけづくりとして、季語や切れ字などの知識も踏まえ、オリジナルの俳句を作成させ、言語感覚を磨くとともに、「豊かな心」の育成にもつなげることをねらいとした。



＜班内でのオリジナル俳句発表会＞

##### ウ 学習課題

- (ア) 班の中で自分のオリジナル俳句を発表する。
  - (イ) 他者の発表を聴き、感想を書き、評価を行う。
- ##### (2) 個に応じたきめ細かな指導（習熟度別少人数指導とTTの導入）

本校では、数学と英語の2教科で、習熟度別少人数指導及びTTによる指導を実施してきた。

指導計画の見直しと改善を図りながら、生徒の基礎・基本の定着や意欲の向上等につなげている。

##### (3) 学校ファームの取組

技術・家庭科の授業では、栽培の授業をとおして技術分野の学習とともに、学校ファームの推進と豊かな心と生命尊重等を大切にする心の育成に取り組んできた。今年、サツマイモ、小松菜、べんり菜等の栽培を行った。



＜サツマイモの収穫＞

##### (4) 道徳の授業の推進

変化の激しい時代を生きていく子どもたちにとって忘れて欲しくない、自他ともにそのよさを認め合うことのできる心を育て、人と人のかかわりを大切にした道徳の授業を実践した。

#### 5 成果と課題

- (1) その学年で身に付けるべき「基礎・基本」をおおむね習得している。
- (2) 授業研究をとおして、発表する場面等を大切にした授業の創造、教員の意識を高めることができた。
- (3) わかる授業の創造、道徳教育の推進等、さらなる工夫を行い、「心豊かで自立して生きる生徒」の育成に邁進していく。

(担当 教諭 野黒 勇)